令和3年度　能美市立寺井小学校　学校評価【最終評価】

重点目標（めざす姿）		具体的方策	主担当	【評価指標】〈成果指標〉〈努力指標〉〈満足度指標〉	T:教師アンケート	C:児童アンケート	P:保護者アンケート	〈評価の根拠〉達成度判断基準	アンケートデータ%	取組状況	評価	学校運営協議会の意見	今後の改善策	アンケートデータ%	最終評価	学校運営協議会の意見	次年度に向けて
1	組織的な学校運営	①【安心・安全な学校づくり】 ヒヤリ・ハットの発信、よくない情報ほど早く共有することを通して、いじめ・不登校の未然防止に取り組む。（気づく）	教頭	〈努力指標〉 ヒヤリ・ハットを発信したり、よくない情報ほど早く共有するようにしている。	ヒヤリ・ハットを発信したり良くない情報をほど早く全体で共有するようにしている。			〈教職員アンケート〉 A:＋評価95%～ B:85%～　C:75%～ D:75%未満	T96	教職員の危機管理意識を高めていくために、報連相を日々確実に行い、情報共有を図っている。	A	特になし	児童の安心安全を大前提に学校全体で見守り、諸問題の未然防止のための情報収集・共有(報連相の徹底)を各委員会で迅速かつ的確に対応・発信を行い、個に応じた教育支援体制を継続して進めていく。	T96	A	特になし	学校内外を含む生徒指導上あるいは個別に支援を要する児童に対する支援体制を組織的に行うことができている。常に学校全体でチームで対応できるために、報連相を徹底し情報共有することなど、安全安心の学校づくりに必要な危機管理意識の育成を図っていく。
		②【GIGAスクール構想の推進】 校内研修推進リーダーを推進役として、年間計画に基づき教職員のICT活用指導力のスキルアップを進める。（関わる）	教頭	〈成果指標〉 校内研修会を計画的に開催し、基本操作に慣れながら、1日2回以上クロームブックを活用する授業を行っている。	1日2回以上クロムブックを活用した授業実践を行っている。			〈教職員アンケート〉 A:＋評価95%～ B:85%～　C:75%～ D:75%未満	T70	年間計画に沿って校内研修会を開催するとともに、教職員の活用回数や経験値を高める取り組みを進めている。	D	休校に備えて児童がタブレット端末を活用できるようにしっかり対応を進めてほしい。	教職員のスキルアップを優先し、授業での活用等を推進リーダーを中心に2学期以降も継続して進めていく。2学期末までに教師アンケート95%の達成に向けて校内研修会を行い授業実践に活かしていく。	T81	C	児童のタブレットの活用の充実をさらに進めてほしい。	児童のタブレット端末のスキルアップは計画的に進んでいる。教職員の授業での活用実績は目標達成できていない。次年度に向けてタブレット端末及び電子ボードを活用した授業実践の交流やミニ研を継続し、より有効な活用技術を身につけていく。
		②【業務改善による学校力の向上】 効率的な会議の在り方、ICT活用による業務改善の工夫により、授業研究等の時間を生み出し、教職員のキャリアアップを図る。（関わる）	教頭	〈満足度指標〉 会議の在り方やICT活用による業務改善の工夫により、授業研究等が充実し、キャリアアップを図れたと感じている。	ICTの活用により業務改善が図られ、授業研究等の充実が進められている。			〈教職員アンケート〉 A:＋評価95%～ B:85%～　C:75%～ D:75%未満	T69	業務改善として、職員会議のペーパレスや職員打合せの内容ややり方などを見直している。	D	保護者との連絡等、ICTを活用できる部分は積極的に進めるとよいのではないか	業務の改善や効率化のために再度業務全体を見直しを一層進めていく。タブレット端末を活用しペーパーレス化し、会議の内容を精選し回数を削減したりすることで、教材研究や学級事務等の時間確保（働き方改革）につなげる。	T89	B	保護者との連絡でもメール使用率を考慮してペーパレス化が図れるとよい。	2学期以降、会議や打ち合わせの時間や回数を見直してきた。タブレットによる情報共有を進め、ペーパーレスによる業務の見直しが進んでいる。業務改善を図り、キャリアアップの時間を確保するために、見通しを持った計画を立て、連絡調整を図っていく。
		③【目標達成に向けた取り組み】 短期PDCAサイクルを積み重ね、目標達成に向け、協働する。（つながる）	教頭	〈努力指標〉 校務委員会や学年会で目標達成に向け、短期PDCAサイクルを回し、協働している。	校内研修や学年会などの機会を通して、自己研鑽の学び合いが出来ている。			〈教職員アンケート〉 A:＋評価95%～ B:85%～　C:75%～ D:75%未満	T100	校内研修会や学年会を計画的に実施する中で授業力向上を組織的に進めている。	A	特になし	組織的に授業力向上を図るため、既存の会議を減らすことや運営の仕方を見直して,学年会や教材研究等のための時間確保を図っていく。	T100	A	特になし	単に時間を確保をするだけでなく、PDCAサイクルを意識しながら取り組みを提起している。グランドデザインの見直しを図り、より目指す方向を組織全体で共有するなかで次年度の準備を進めていく。
2	知（自分の考えを伝える子）	①【深い学びにつながる授業改善】 ゴールの姿を明確にし、見方・考え方を働かせた授業過程を工夫し、学びが自覚できる振り返りを行う。	研究	〈成果指標〉 授業づくりアンケート、学習の学びへのアンケート、重点単元単元末活用問題の習熟状況	数学的な（教科の特性を踏まえた）見方考え方を働かせ、ゴールの姿を意識した授業づくりに努めている。	・授業づくりアンケート ・学習の学びアンケート ・重点単元単元末活用問題の習熟状況	お子さんは、授業中、落ち着いて学習している。（参観授業から） お子さんは学年の授業内容を概ね理解している。	〈教・児・保アンケート〉 A:+評価90%～ B:80%～ C:70%～ D:70%未満	T96 C84 P97	教師は、単元で付けたい力を明確にして授業作りを行っている。児童の意識も納得感やより深めていこうする意識も高まってきている。	B	特になし	学年間で単元のゴールを明確にし、実践を行っていく。児童が問いを持って主体的に学ぶために根拠や理由を問いかけ、深い学びにつながる授業設計を行っていく。児童が考えを発信できるように学年で決めた取り組みを行い、児童の振り返りから児童の考えや様子を見取っていく。	T100 C85.8 P95	B	児童と教師のポイントの差を埋まるような指導をお願いしたい。	教師は、単元構想を行い一人1授業を実践を通して、つけたい力を明確して授業を行うことの意識が向上している。児童も算数の対しての意識は高い。しかし、教師のつけたい力と児童が使える力が比例していない。教師間、教師と児童間での主体的・対話的で深く学ぶことのイメージを共有し、児童の実態に合わせた単元構想・授業を行っていく。
		②【基礎基本の確実な定着】 はくれいタイム等を充実させ基礎基本の定着を図る。	主幹	〈成果指標〉 学期末の漢字・計算テストで、クラス平均90点以上を目標に取り組む。（漢字まとめテストは練習なしの点数）	・学期末漢字計算テスト90%以上	学習した内容がわかる。	学校は、子どもの学力向上に努めている。	〈期末漢字計算テスト〉 A:90点～　B:80点～ C:70点～　D:70点未満	T漢字89 計算90 C89 P99	現学年で身に付けるべき基礎基本の内容を定着させるためにくり返し学習に取り組んでいる。AIドリルも活用しながら定着を図っている。	B	特になし	定着を図るためには継続した指導が欠かせない。確実に定着させるために、既習の問題にくり返し取り組んだりしていく。定着具合を検証しながら、個別の指導もしていく。	T漢字90 計算87 C89 P97	B	地域と連携して学力向上に取り組むことを継続していけるとよい。	授業やはくれいタイム、家庭学習などで基礎力定着のために取り組んできた。教師の意識も向上し、全員にその学年で身につける学力が定着するために継続した指導を行ってきた。次年度には学校全体で定期的に基礎力が定着するようなシステムを作り組織的に指導をしていく。
		③【家庭学習の習慣化】 家庭学習頑張り週間後に検証テストを行い、内容の定着を図る。	主幹	〈成果指標〉 検証テストでクラス平均90点以上を目標に取り組む。	・検証テスト 平均90%以上	家に帰って、毎日、家庭学習（宿題）をしている。	お子さんが家庭学習に取り組めるよう声をかけたり環境を整えたりがんばりを見つけてほめたりしている。	〈検証テスト〉 A:90点～　B:80点～ C:70点～　D:70点未満	T検証テ88 C98 P93	短期の目標を設定して家庭学習に取り組むようにしている。基礎基本の定着を図るために、教師もその都度必要な内容を宿題として出している。	B	特になし	家庭学習は、児童アンケートからみても定着している。今後も教師は、基礎基本の力が身につくように、家庭学習がんばり週間での宿題の取り組み方を学年で話し合い、指導する。また、自ら進んで学習できるように声をかけていく。	T90 C96 P95	A	特になし	家庭学習の充実を図るために質の向上を目指し、がんばり週間に合わせて検証テストを行った。次年度からは、何のために家庭学習を行うのかを児童にも考えさせ、宿題や自学にも取り組ませていきたい。検証テストも定期的に行えるようシステムを作り効果的に家庭学習ができるようにしていく。
		④【読書活動の推進】 学校や家庭での読書を積極的に勧め、読書を楽しむ児童を育てる。	図書	〈満足度指標〉 本を読むことが楽しいと感じる。	児童が学校や家庭での読書に親めるように指導している。	本を読むことが好き。	お子さんは、家で読書をしている。 家庭では、お子さんが読書ができるように配慮している。	〈教・児・保アンケート〉 A:90%～　B:80%～ C:70%～　D:70%未満	T81 C74 P58/65	読書に親しむ機会や時間を確保しながら、PTAとタイアップした取り組みを進めた。	C	家庭では読書時間の確保が難しい。親も子もやることが多く忙しい状態だと思える。	児童が読書を楽しむことが感じられるよう、司書と連携しタイムリーな書籍の紹介や委員会活動で取り組み等を行いながら、図書室の利用喚起を進める。（80%）	T98 C74 P59/67	C	読書は大切な活動であり少しでも時間を取り継続して取り入れてほしい。図書ボランティアの活動でも工夫を考えて読むことの楽しさを伝えていきたい。	読書をすることの良さを伝えながら、できるだけ読書の時間を確保していく。司書との連携を継続し、児童が本に興味がもてる工夫をしていく。
3	徳（よさを見つける子）	①【生徒指導の3機能】 年間3回、自分達の成長を実感する「めざす学級」の取り組みを行い、自己有用感の向上を図る。	生徒指導	〈満足度指標〉 「学校生活は楽しい」と感じている。	授業の中で生徒指導の3機能を意識した声かけや関わりをしている。	学校での生活は、楽しいことが多い。	お子さんは、学校生活を楽しんでいる。	〈教・児・保アンケート〉 A:＋評価90%～ B:80%～　C:70%～ D:70%未満	T96 C94 P96	全学級が「めざす学級」の取組を行い、学期末に自分達の成長をふり返った。また、各学年1クラスの代表がクラスの成長を全校に向け、発信した。	A	児童が互いによさを認め合うことは大切である。今後も取り組みを継続し、自己肯定感や自己有用感を持たせられようにお願いしたい。	定期的に取組をふり返り、子ども達に成長を意識づけていく。また、各学年で決めた児童を認める声かけを行うことで、児童の自己有用感を高めていく。	T85 C93 P97	B	コロナ渦で人間関係の疎くなってきたことが影響しているのか。人だけでなく、社会や物事についてもポジティブに考えることができるようになったらいい。HLの取組そのものの評価を行うとよい。	教師の肯定的回答が減少したのは、研修等を経て、生徒指導の3機能を生かした取り組みが明確化されてきたからだと考える。来年度は、今年度の研修を生かして、より授業にいかせるように取り組んでいく。
		②【自分や友達の良さを認識する】 「ハッピーレター」の取り組みで、自分や友達の良さを再認識する。	生徒指導	〈満足度指標〉 「自分にはよいところがある。」と思う。	思いやりのある心をはぐくみ、いじめのない学級づくりに努めている。	「自分にはよいところがある。」と思う。	お子さんのよさを折りにふれて伝えている。	〈児・保・教アンケート〉 A:＋評価90%～ B:80%～　C:70%～ D:70%未満	T96 C87 P94	行事の後にハッピーレターを取り組むだけでなく、普段の生活での友達のよさを見つけることも行った。	B		子どもたちはとてもよい表情をしていたので、2学期も同様に取り組んでいく。	T96 C80 P94	B		児童は、他者のよいところは認められるが、自分のよさに自信がない、気づいていないといったことが考えられる。自分のよさに自信がもてるよう、教師が児童のよさを認めていく。また、教師が児童のよさを認めることを参考に、HLの内容の向上を図っていく。
4	体（自分の命を自分で守る子）	①【体力の向上】 主運動に入る前の予備運動や各種目・領域の段階的指導を行い、児童の体力向上とケガ防止を図る。	保健主事	〈成果指標〉 ・体育時のけがの割合 ・提案された予備運動や段階的指導をおこなった教師の割合	・保健室来室状況結果 ・提案された予備運動や段階的指導をおこなった教師の割合	運動や遊びの中で、元気に動いていることが多い。	学校は、校内外の安全指導に努め、事故防止に配慮している。	〈教アンケート〉 A:A95%～ B:+評価95%～ C:+評価90%以下　D:90%未満	T96 C91 P95	年間指導計画をもとに単元に入る前に職員向け、児童向けに段階的指導資料や学習カードを配布し安全に留意した学習計画を立ててもらった。	A	特になし	2学期以降も体育授業の安全面の配慮、段階的な指導法を全職員共通理解のもと行うことで、ケガの予防・体力アップにつなげていきたい。	T100 C89 P100	B	特になし	体育授業の安全面の配慮や、段階的な指導を全校共通で行うことで、児童は大きなケガなく、自分にあった方法で授業に取り組むことができるようになった。今後も学習カードや映像資料等を工夫し安全で段階的な指導が行われるようにしていきたい。
		②【健康な体づくり】 感染症・熱中症対策、避難訓練等で児童自らが判断して命を守る行動ができる指導を行う。	保健主事	〈努力指標〉 新型コロナウイルス感染症を予防するための行動を自分で考えてできている。	新型コロナウイルス感染症を予防するための行動を自分で考えてできるよう指導している。	病気（コロナウイルス）やけがをしないよう考えて学校生活が送れている。	学校は、子どもたちの体力向上・健康づくりに努めている。	〈児・教・保アンケート〉 A:85%～　B:80%～ C:70%～　D:70%未満	T100 C92 P95	保健委員会児童のテレビ放送・掲示物の工夫等、様々な形式で感染症予防を全校に広め、共通実践をした。	A	特になし	全校で換気・マスク着用・手洗い消毒を今後も徹底していけるよう学年で意識を高くもった感染症対策を計画・実行していきたい。	T100 C92 P96	A	感染症対策については、正しい理解や知識、評価をもとに柔軟に対応を考えても良いのではないか。	換気・マスク着用・手洗いの効果を視覚化したり数値化し全校に発信することで、感染症対策への意識がより高まった。また各クラスの実態に応じて具体的な取り組みを考える等、主体的な感染症対策を実践することができた。今後も感染症対策の取り組みを工夫して継続していきたい。
		③【望ましい食習慣の形成】 好き嫌いせずに給食を食べる児童が増える食育指導を工夫する。	保健主事	〈努力指標〉 給食を好き嫌いせずに食べている。	食育の指導(資料に沿った給食目標指導等)を計画的に行っている。	朝ごはんを毎日ちゃんと食べている。 給食は残さず食べている。	お子さんは、平日はだいたい決まった時間に起きて、朝ごはんを食べている。	〈児・保・教アンケート〉 A:85%～　B:80%～ C:70%～　D:70%未満	T96 C81 P99	給食時間の全校放送や学級指導用資料としてぱくぱくだよりを配布するなど学級担任と連携して食育指導を行った。	B	特になし	食生活アンケートの結果から、おやつの摂取状況や朝食の内容、好き嫌いについて、児童の実態を踏まえた食に関する指導を展開していく。	T92 C81 P98	B	無理強いすることなく進めてほしい。	学校全体で組織的に食育がさらに推進していくよう、細やかな指導の工夫を継続していきたい。また、食に関する指導の事後指導で、家庭と連携することにるより、学習内容を定着させるとともに児童の残さず食べる意識の向上を図りたい。
5	家庭・地域との連携協働	①【基本的生活習慣の確立】 家庭でのネットやゲームのきまりを児童とともに考え、きまりを守ることを意識づけることで規則正しく生活する児童の育成を図る。	生徒指導	〈努力指標〉 家庭でのネットやゲームのきまりを守り、規則正しい生活ができている。	ネット社会の危険な部分を伝え、情報モラル教育の推進に努めている。	「ネットのルール」を守り、テレビやゲーム・ネットの時間が長くならないように気をつけている。	家庭では「ネットのルール」を守り、TVやゲーム・ネットの時間が長くならないように気をつけている。	〈教・児・保アンケート〉 A:＋評価90%～ B:80%～　C:70%～ D:70%未満	T96 C80 P85	3～6年生にアンケートをとり、児童会を中心に、寺井小独自のネットのきまりを作成し、きまりを守るよう意識づけた。	B	ネットルールについては、家庭での取り決めが大切である。様子を見ながら連携をとり対応してほしい	ネットのきまりを意識できるよう、児童会から10月と12月に声かけを行うなど、意識づけていく。	T93 C80 P86	B	どうしてきまり守れなくなったのか、原因を探りながら取り組みを進めるとよい。	児童会を中心に、定期的に児童の実態を把握し、「寺井小ネットのきまり」を守るように声をかけたことは効果的であった。さらに、児童にきまりを守る意識をもってもらうために、児童会を中心に定期的に声掛けを行うことを継続していく。
		②【開かれた学校づくり】 学校運営協議会と連携しながら、学校教育活動を家庭や地域に積極的に発信し、開かれた学校づくりに努める。	教頭	〈努力指標〉 学校だよりやホームページなどで、教育方針や教育活動を積極的に保護者に伝えている。	学校は、ホームページや学校だより等で、教育方針や学校教育活動などを保護者に伝えている。		家庭では、ホームページや学校だより等をみて、教育方針や学校教育活動などについて理解している。	〈保・教アンケート〉 A:＋評価90%～ B:80%～　C:70%～ D:70%未満	T96 P97	ホームページや学校便り、学級だよりなどで学校の様子を定期的に伝えている。	A	今後も学校の要望を受け協力していきます。	学校運営協議会との連携を大切にしながら、150周年の事業に向けての活動も含め、今後も開かれた学校づくりを推進していく。	T100 P98	A	地域教育という視点で、もっと九谷焼を活用するとよい。地域保護者が学校の教育活動に参加することで開かれた学校に向かっていると感じる。	学校運営協議会のみならず地域、保護者のサポートを受けながら、学校運営が進められている。学校運営協議会と連携をとりながら、次年度も学校のサポートしていただきながら、150周年事業も含めた取り組みを充実発展させていく。